

SDGs 推進に向けて 三井住友海上火災保険と包括連携協定を締結



5月11日、三井住友海上火災保険株式会社(本社・東京)と、県内の市町村では初めて、SDGs(持続可能な開発目標)推進等に関する包括連携協定を締結しました。この協定では、市民や企業・団体向けにSDGsに関する研修やセミナーを開催する際に同社が講師派遣などに協力するほか、今後は防災や環境保全、子育て支援や健康増進、市民サービス向上に関することなどの取組を検討していきます。本坊市長と

【9つの連携項目】

- (1) SDGs 推進に関すること
- (2) 防災・減災及びリスクマネジメントに関すること
- (3) 地域産業の振興・支援に関すること
- (4) 子育て支援に関すること
- (5) 観光振興に関すること
- (6) 環境保全に関すること
- (7) 健康増進、高齢者・障がい者支援に関すること
- (8) 地域の安全、安心に関すること
- (9) その他、地域の活性化及び市民サービスの向上に関すること

協定を交わした土橋久満鹿兒島支店長は「リスクの専門家として地域の更なる活性化に向け皆さんと共に頑張っていきたい」と、話しました。



よみがえれ 川畑みかん



4月20日、加世田常潤高校で川畑みかん復活プロジェクトの一環として、J A南さつまから講師を招いて接ぎ木講習会が行われました。同プロジェクトは加世田川畑地区が原産でほとんど現存しない川畑みかんを、10数年かけて復活させようとするもので今年が4年目。3年生の藤田海斗さんは「僕たちの代では終わらないが、参加できていることがありがたい。うまくいけば、また産地として復活してほしい」と、話しました。

昔ながらの田車押しに挑戦



4月30日、金峰町尾下の東馬場伸さんの水田で金峰中1年生48人が田車押しを体験しました。爪の付いた車輪で、苗の間の雑草を取り除き土に空気を送り込むことで、稲の成長を早める効果があります。山野美羽さんは、「バランスが難しく上手く出来なかった。米作りの苦勞を知ったので、お米を残さず食べたい」と、話しました。7月上旬頃に収穫し、市内の小中義務教育学校などの学校給食に提供される予定です。